

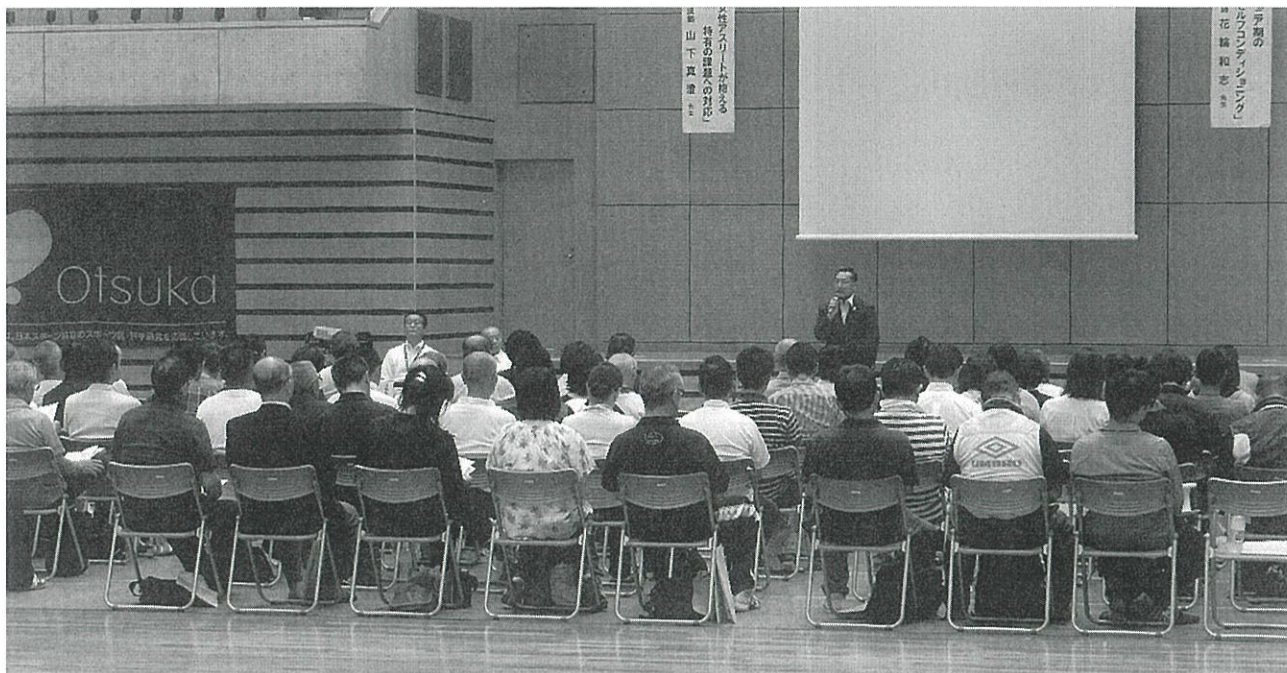
山梨県スポーツ指導者協議会

会報

第30号〈令和2年3月発刊〉

目次

会長あいさつ…………… 1
 国民体育大会全国Vへ向けて…………… 2
 ともに成長することの楽しさ…………… 3
 研修会の報告…………… 4～5
 峡南支部活動報告…………… 6
 山梨県スポーツ指導者協議会表彰・
 日本スポーツ協会公認スポーツ指導者表彰… 7
 事業報告・事業計画…………… 9



令和元年度山梨県スポーツ指導者協議会 総会 (R1.6.8)

スポーツ指導者協議会のあり方について



会長 市村 一司
体操コーチ4

令和元年度の全国スポーツ指導者連絡会議でスポーツ指導者協議会のあり方について問題提起が日本スポーツ協会からあった。

本県においても北都留支部の再生にあたり、協議会や支部のあり方について見直してみた。

スポーツ指導者協議会の主な目的は指導者の資質向上と親睦である。支部においての役割は四つ考えられる。支部独自の研修会主催、地域の指導者の表彰推挙、近くで更新研修を受けられる機会を得る主管、県の協議会の企画に参画できるよう理事を出すなどである。

しかし、理事会に全員の見解が活かされているか心配になる。ホームページによって会員の皆様の意見もお聞きしたい。また、サッカーやバスケットボールの指導者の皆様も会員ではあるが、更新講習を競技団体が担うため名簿が削除された。会員に連絡ができないので県の競技団体に協力を求めている。

この機会に本県協議会ホームページのQRコードを載せますので活用していただきたい。



国民体育大会全国Vへ向けて



県立身延高等学校陸上競技部

顧問

小林浩昭

二〇二〇年が始まりました。東京オリンピック・パラリンピックイヤーの幕開けとともに、気持ちの高まりを感じているのは、私だけではないだろう。代表選手たちへの「BIGな期待」が存在します。良いコンディションを保ち、トレーニングを継続していくことで「より高いパフォーマンス」が発揮できる最高の舞台が世界を釘付け

た。東京オリンピック・パラリンピックイヤーの幕開けとともに、気持ちの高まりを感じているのは、私だけではないだろう。代表選手たちへの「BIGな期待」が存在します。良いコンディションを保ち、トレーニングを継続していくことで「より高いパフォーマンス」が発揮できる最高の舞台が世界を釘付け



にするシーンを楽しみにしています。さて、昨年の第七四回国民体育大会、少年男子B砲丸投において、小森直吏選手が全国優勝を成し遂げる手ができました。身延高校の歴史に名を刻むシーン

でした。中学校時代からの継続的な指導に加えて高校に入学してからのトレーニングパートナーが計画性を増し、意欲的な技術練習・ウエイトトレーニングに加え、本人の「強い勝負心」が一体となった瞬間でもあり、本校陸上競技部の永遠のテーマである「夢実現」が叶った時でした。



私は、数日前にひらめいたことを実行しました。茨城県での開催ということもあり、一、二年生の陸上競技部員二五名を競技会場に連れて行き、サイドスタンドからの全体応援（声掛け）をすることであり、「選手が戦士」になるよう部員皆の魂をぶつけさせることでした。国体を間近で観

ることに、感じることに、そして選手に部員たちからの熱き心、メッセージを伝え、「スーパードリーム」を与え、力を発揮させることを実現させたいと考えました。

大会当日は、朝から試技時間に向けてのスケジュールプランを練り、予選から決勝投擲までの「六投のイメージ」をつかませること。通常の大会と同じ動きをするので、「適度な緊張感」を抱かせ、本番へのモチベーションを一層高めさせることで、「絶対に勝つ」というメンタルポジションを植え付けることに傾注しました。

予選三投が終了し決勝四投目、その時がやってきました。「イキマス」という強い掛け声、部員全員からの「ハイ」のもとプットされた砲丸は、BIGスローへと繋がったのである。一六m六六〇という記録表示であつた。

さらに、二週間後の県グランプリ大会において、一七m二九〇という県高校新記録を樹立することができました。中学校から高校への一環指導、指導者とのコミュニケーションにとつても選手との出会いから始まり、数々の「試行錯誤」を乗り越えての報われた一瞬である。

ともに成長することの楽しさ



県立甲府昭和高等学校なぎなた部

顧問

志藤 綾香

令和元年度のインターハイ個人戦も団体戦も制した首里高校の山城選手の姿勢には驚かされることばかりだった。二年前。彼女が一年生で臨んだインターハイ。団体戦で負けた相手は、



私たちが甲府昭和高校だった。前年度の覇者だった首里高校との戦いに、私たちは「チャレンジ精神」を發揮させることができた。その試合は私にとっても選

手の大きな成長を感じることのできる試合だった。

制した。見る度に首里高校の選手たちからは「絶対勝つ」そんな確信を感じさせるオーラが出ていて、試合でも發揮されていた。後日、首里高校についての記事を読んだ際、「あの時負けたから」と私たちとの試合が変わったきっかけになったと知った。一回の負けが個人だけでなく、チーム全体にこれほどまでの変化をもたらすのか、と驚いた。彼女たちにどんな言葉を投げかけたのか、どんな練習をしたのか、指導者の方の言動がすごく気になった。それから何度か合宿や大会で首里高校の先生や選手と一緒に、共に練習をすることもできた。気が付いたことは、特別な練習や特別な声掛けをしているわけではなく、ということ。彼女たちが顧問の先生を信頼し、先生も選手を信頼している。そ

んな関係が築かれていることだ。そして、彼女たちは自分たちで常に「考えている」。どんな練習も自分たちのために取り組んでいる。どんな相手にも自分たちの力を發揮している。どんな時もあるの前のことに集中し、先のことでも読んでいく。そして、なぎなたを楽しんでいる。それらの姿勢は一目瞭然だった。そんな自主的姿勢が育まれる環境を先生も含めたチームで作っているのだと学んだ。

私自身、選手としてなぎなたに関わる時間も多々、様々な経験をすることができていると思う。それらを指導になげようとも考えながらである。指導をするからには選手以上に

学ばなければいけないと感じるからである。選手としても指導者としても模索中の私にとって、大会や合宿で出会う他の指導者だけでなく選手から多くの発見をさせてもらうことが楽しい。いつかは「私らしさ」のある指導者にならなければいけないのだろうが、私はまだまだ学びたい。多くの人に出会い、多くの経験をし、成長していきたい。



研修会の報告

「第一回スポーツ指導者研修会に参加して」

峡北支部

篠原 雅光

(バレーボールコーチ)



まずは、『ジュニア期のセルフコンディショニング』について、甲斐市で「アスとれ総合型クラブ」の代表をしている花輪和志先生による講演である。

子ども達は遊びを通じてスポーツに触れ、興味を持ち、その中で社会に通じるルール等を覚えていく。また、子供たちを指導する際、実年齢と生物学年齢には差があるという認識を持つことが大切であるという点は、日々の指導に生かしていきたいと思った。

「第二回スポーツ指導者研修会を受講して」

峡中支部

高野 晃史

(ソフトボールコーチ)



当たり前だが、良いコンディショニング作りには、栄養バランスの良い食生活が必要であることが再確認できた。

「体を動かすことができ

る喜び」

かれこれ四〇年の付き合いとなったソフトボール。仲間との試合後の飲み会、試合中のミスやエラーを肴に盛り上がる時間。これが至福のひとつである。しかしながら年を取るにつれ、怪我や体が動かないことによるミスが多くなる。必ず誰かが試合で怪我をするようになった。令和元年第二回のスポーツ指導者研修会を受講し、改めて「準備運動」と「食事とスポーツ」の再認識をしたところである。試合会場に入るとすぐさまキャッチボールを始めストレッチなどしないままに試合に突入する。講師曰く、「怪我をしてください」みたいなものだと教えられた。当日は、実際に体を動かしながら、どうしたら体がほぐれるのか体験もさせてもらった。体づくりと食事面でのバランスなどを考慮した講義の中から、チームの皆と共に、心と体にゆとりをもつてもう少し頑張ってみるよと高揚感を与えがえらせてくれる、すばらしい研修であった。

「第二回スポーツ指導者研修会に参加して」

南都留支部

北川 浩正

(カヌーコーチ)



山梨県内の日本スポーツ協会公認スポーツ指導者のさらなる資質向上と活動促進及び指導者の連帯感を深め組織的活用をはかるための研修で、「ジュニア期」について花輪和志先生、「女性アスリートが抱える特有の課題への対応」について山下真澄先生から講演をいただいた。

「ジュニア期のセルフコンディショニング」として、ジュニア期の子供たちにスポーツの楽しさを教えることや現在の子供たちの体力低下を「遊び」を通して解消していくこと、また子供たちの体力・体格の個人差にあったセルフコンディショニング・ストレッチ等の指導を

個々に対応していくことがジュニア期にとっても必要であることを学んだ。

次に「女性アスリートが抱える特有の課題への対応」として、先生自身が選手経験のあるアスリートであったことがとても身近に感じた。エネルギー不足が引き起こす女性アスリートのスポーツ障害について学び、特に体脂肪率の重要性、バランスのよい食事を摂取し練習してることが必要であり、そしてバランスのよい食事を摂取することは、すべてのスポーツ選手に対しての重要性を改めて感じた。

今回の研修会で知り得た知識を指導者・選手・保護者に還元できるように競技の練習だけでなく選手のパフォーマンスを上げる講習会などを取り入れていきたい。また、そのためにも指導者自身は選手のために勉強を続けることの大切さを再確認することができた。



「第三回スポーツ指導者 研修会を受講して」

南都留支部

宮下 勝正

(陸上競技コーチ2)



令和二年二月一六日富士河口湖町「勝山ふれあいセンター」において指導者研修会が行われました。

講演Ⅰは「ジュニア期のセルフコンディショニング」と題して講師に花輪和志先生(アスとれ総合型クラブ代表・公認アスレチックトレーナー)と講演Ⅱは「女性アスリートが抱える特有の課題への対応」と題して講師に山下真澄先生(管理栄養士・日本スポーツ協会公認スポーツ栄養士)をお迎えして行われました。

講演Ⅰではジュニア期は運動、スポーツでなく遊びを通じての身体活動が必要で、子供の内発的な動機付けを促すことが重要であ

り、それには大人が遊びを教えすぎないことや楽しい雰囲気作り、大人も一緒になつて遊ぶこと等が必要である。また、ジュニア期の問題点としては、早期専門競技化、単一競技化における弊害として怪我の増加、スポーツ万能なジュニアの少なさが挙げられる等の講演でした。私も同感する内容であり、ジュニア期の指導者としては、スポーツ、運動の型にとられず、遊びから身体活動を向上させ、遊びを通して身体能力の高いジュニアを育成し、中学や高校に送り出すことに努めたいと思います。

講演Ⅱでは、女性のライフステージと女性ホルモン、女性アスリートの健康問題、女性アスリートに与える影響と食事の講演であり、このことから、男性とは違う女性特有の健康管理が必要であり、また、女性と男性の身体の違いを理解して、特に女性アスリートへの指導には細かい配慮が必要であると思いました。昨今では、スポーツに限らず女性の社会進出が著しく、あらゆる場面において女性の身体の特徴を理解しながら指導、育成を行っていききたいと思えます。

最後に、年度末に近い時期にも関わらず県スポーツ指導者協議会事務局には、このような研修の機会を設けていただき、また、指導員の皆様方には参加していただいたことに感謝いたします。

「特別研修会」に参加して

岡村 操

(ソフトテニスコーチ2)



「One Team」今年の流行語大賞を受賞したこの言葉が、多くの場面で使われている。講演会の冒

頭での「自転車競技はチーム競技。優勝するのは一人の選手だが、この一人を育てるために多くのスタッフがいる。」との発言が印象に残っている。

今回の特別研修会では山中湖村観光産業課国際交流員、サイクリングチーム「山中湖シクリスムフオーマシヨン」のチームマネージャーのボシス・トム氏から、「フランスのアスリートから見た日本のスポーツ」という演題で講演をいただいた。選手強化、組織運営につながるとても興味深い内容であった。

ボシス氏から、日本は学校体育から競技に入ることが多く、スポーツが教育の一環になつてしまふ、本気で競技に取り組みたいと思つている若者にとつて目指すべき頂点が見えにくいため、なかなか世界で戦う選手が育たない、組織を変えることは難しく、ヨーロッパのモデルをもってきても上手くいかない指摘された。確かに世界で活躍できる選手になるために日本を出て行く若者も少なく

ない。組織の長となる者が世界を見つめ、ジュニアからの若者層の未来を考え、競技力を高める為の組織作りと運営をしていく必要があると感じた。現に、強化を進めている競技団体の中には、将来有望な選手を集め、技術力、また人間力を高める為の教育が実施されており、結果も残し始めており、二〇二〇年の東京オリンピックに向けて、各競技で強化が進められている今、山梨県からも多くの選手を排出できるように「Team山梨」となり、多くのみなさんでスポーツを盛り上げていきたいと感じた。

最後に、このような機会を与えてくださった、山梨県スポーツ指導者協議会の皆様に感謝をいたします。



峡南支部 活動報告

醍醐山を通じた支部活動

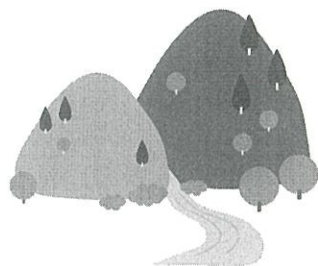
峡南支部

磯野澄也

峡南支部では、毎年の主行事として「醍醐山を愛する会」が主催する醍醐山一斉登山に共催として参加支援している。これは年二回春五月・秋十一月に開催されるが、協議会としては秋のみ参加で、令和元年十一月に第十四回を迎えた。前夜の大雨で減ったものの五十五名、それに地元のおもてなし班が加わり総勢六十一名が参加した。時には一〇〇名を超えるほどの登山になる。甲斐常葉駅（二四〇m）から醍醐山（六三五m）まで標高差約四〇〇mと手頃の山で、今までに二歳から八十六歳と年齢層の幅は厚い。毎回、

講師を立て頂上交流イベント・下山時地元上之平区でおもてなし・湯之奥金山博物館での反省会・下部温泉の入浴等、誰でもが参加できる山は人気度が高く、小さな地域の活性化に寄与している。

思えばこれらに先立ち平成二十四年十二月、荒れ果てていた醍醐山が地元有志・山岳関係者により整備され、団体一斉登山が峡南支部によって開催されたことから始まる。底辺を広げると多くの方々が自然に親しめ、スポーツの普及の役割を担ったことを実感している。



令和元年度
「山梨県スポーツ指導者協議会表彰」

功労表彰



田中親吾

（スポーツプログラマー
バレーボールコーチ1
アシスタントマネジャー）

令和元年度

「公益財団法人日本スポーツ協会公認スポーツ指導者等表彰」

永年表彰



保坂重機

（陸上競技コーチ3）



上田たまき

（ゲートボールコーチ1）



田中親吾

（スポーツプログラマー
バレーボールコーチ1
アシスタントマネジャー）

全国公認スポーツ指導者表彰を受賞して

峡南支部 保坂重機

（陸上競技コーチ3）

令和元年十二月七日（土）、東京都・TKPガーデンシティ品川一階ホールに於て一三時〇〇分から一七時三〇分まで開催された標記研修会・表彰式に出席しました。私は永年「公認陸上競技コーチ3」として競技指導・県スポーツ指導者協議会役員としての活動等が認められた受賞でした。今年度全国一七〇名受賞、山梨県は三名受賞した内の一人ですが、全国研修会という場での表彰に大変な感動を覚え、大きな喜びを感じました。そして、健康に留意し今後も指導者としてスポーツ振興・普及・強化等に努力したいと決意しました。研修会是一部座談会、二部

講演「スポーツにおける勇気づけ」、三部ワークショップ「グッドプレーヤーを育てるコーチング」が行われましたが、一部の講師「上野和香子氏」が三人の娘さんを柔道日本代表に育て上げたお話、「内村周子氏」の子息「航平さん」を世界の体操内村として、日本の星に育成したお話には大変感動しました。素晴らしい体験をした研修会でした。



全国公認スポーツ指導者表彰を受賞して

峡南支部 上田 たまき
(ゲートボールコーチ)

この度、令和元年度公認スポーツ指導者表彰を受賞させて頂き恐縮である。推薦して下さい各関係者の皆様のお陰と心より感謝申し上げます。

スポーツ指導員の資格取得を契機に県ゲートボール協会にて広報・普及委員を務め、指導員として活動をしてきた。現在、女性部委員として大会や講習会の運営に携わっている。

全国研修会では、哲学者の岸見一郎氏「スポーツにおける勇氣づけ」について学んだ。またワークショップでの「グットプレーヤーを育てるコーチング」では、各種競技指導者の方々と情報交換を行いながら実践を交

えて指導法を学んだ。多くの情報を得ることができ良い経験になった。学んだことを活かし、今後も指導者として積極的に活動し貢献していきたい。



公認スポーツ指導者表彰を受賞して

笛吹支部 田中 親吾
(バレーボールコーチ)

このたび令和元年度「県スポーツ指導者表彰」及び「全国公認スポーツ指導者表彰」を頂いたことについては身に余る光栄であるとともに、ご推薦いただいた笛吹支部、並びに県スポーツ指導者協議会各位のおかげと心より感謝し厚くお礼申しあげます。

私は現在スポーツ少年団の子どもたちと週三回のペースで汗をながしている。職場の先輩が「スポーツ少年団を立ち上げたいので子どもたちと一緒に遊んであげてほしい」と言われたのがきっかけとなった。今思うと「強いチームを作りたい」とか「全国レベルの選手を育てる」とか

言われていたら恐らく関わってはいなかったと思う。どんなレベルでもスポーツは楽しい。子どもたちにスポーツをすることの楽しさを味わってほしい。今でもそのスタンスは変わっていない。生活環境は日々変化しているが、時代は変わっても身体を動かしたいという人間の欲求は変わらない。思いっきり身体を動かし心身ともに安定した状態で楽しい日々を送ることができるとそれが私の願いである。



令和元年度 山梨県スポーツ指導者協議会事業報告

年	月日(曜日)	事業名	会場等
平成31年	4月6日(土)	<協力事業> 山梨県スポーツ少年団フェスティバル	小瀬武道館
令和元年	5月17日(金)	第1回執行部会議	小瀬武道館第2会議室
	5月22日(水)	第1回理事会 専門部会	小瀬武道館第1会議室
	6月8日(土)	令和元年度山梨県スポーツ指導者協議会総会及び第1回研修会	小瀬武道館アリーナ
	7月19日(金)	第2回執行部会議	小瀬武道館第2研修室
	7月24日(水)	第2回理事会 専門部会	小瀬武道館第1会議室
	8月31日(土)	第2回研修会	甲斐市竜王北部公民館
	11月6日(水)	特別研修会 (講師:ボシストム氏)	小瀬武道館第1会議室
	11月15日(金)	第3回執行部会議	小瀬武道館第2会議室
	11月20日(水)	第3回理事会 専門部会	小瀬武道館第1会議室
	12月6日(金)	令和元年度全国スポーツ指導者連絡協議会幹事会・全体会	JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE
	12月7日(土)	令和元年度公認スポーツ指導者等表彰式・全国研修会	TKPガーデンシティ品川
令和2年	2月14日(金)	第4回執行部会	小瀬武道館第2会議室
	2月16日(日)	第3回研修会	河口湖町勝山ふれあいセンター
	2月19日(水)	第4回理事会 専門部会	小瀬武道館第1会議室
	3月31日(火)	会報第30号発刊	

令和2年度 山梨県スポーツ指導者協議会事業計画

年	月日(曜日)	事業名	会場等
令和2年	4月11日(土)	<協力事業> 山梨県スポーツ少年団フェスティバル	※コロナウイルス感染予防対策により 開催中止
	5月22日(金)	第1回執行部会議	小瀬武道館第2会議室
	5月28日(木)	第1回理事会 専門部会	小瀬武道館第1会議室
	6月27日(土)	令和2年度山梨県スポーツ指導者協議会総会及び第1回研修会	小瀬武道館アリーナ
	7月17日(金)	第2回執行部会議	小瀬武道館第2会議室
	7月22日(水)	第2回理事会 専門部会	小瀬武道館第1会議室
	9月	第2回研修会	笛吹・東山梨支部地区
	(未定)	特別研修会	未定
	11月13日(金)	第3回執行部会議	小瀬武道館第2会議室
	11月19日(木)	第3回理事会 専門部会	小瀬武道館第1会議室
	12月4日(金)頃	令和2年度全国スポーツ指導者連絡協議会幹事会・全体会	東京都
	12月5日(土)頃	令和2年度公認スポーツ指導者等表彰式・全国研修会	東京都
令和3年	1月	第3回研修会	甲府・峡北支部地区
	2月19日(金)	第4回執行部会	小瀬武道館第2会議室
	2月24日(水)	第4回理事会 専門部会	小瀬武道館第1会議室
	3月下旬	会報第31号発刊	

小さな掛金、大きな補償

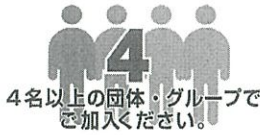
スポーツ安全保険®

対象となる事故

団体・グループ活動中の事故/往復中の事故

保険期間

令和2年4月1日午前0時から
令和3年3月31日午後12時まで



加入区分・掛金・補償額

加入対象者	補償対象となる団体・グループ活動	加入区分	年間掛金 (1人当たり)	傷害保険金額				賠償責任保険 支払限度額 (免責金額なし)	突然死葬祭 費用保険 支払限度額
				死亡	後遺障害 (最高)	入院日額 (1日目から/ 180日限度)	通院日額 (1日目から/ 30日限度)		
子ども (中学生以下) ※特別支援学校高等部の生徒を含む	スポーツ活動 文化活動 ボランティア活動 地域活動	A1	800円	2,000万円	3,000万円	4,000円	1,500円	対人・対物賠償 合算1事故 5億円 (ただし、対人賠償は 1人1億円)	180万円
	上記団体活動に加え、個人活動も対象 上段: 団体活動中およびその往復中の補償額 下段: 上記以外(個人活動など)の補償額	AW	1,450円	2,100万円 熱中症および細菌性・ウイルス性食中毒の 場合、保険金額はA1区分と同額	3,150万円	5,000円	2,000円	対人・対物賠償 合算1事故 5億円 500万円 (ただし、対人賠償は 1人1億500万円)	
大人 (高校生以上)	スポーツ活動(指導・審判を含む) ※右記年齢の判断は、「令和2年4月1日」と「掛金の支払い手続きを行う日」のいずれか遅い日の年齢を基準とします。 ※A2区分で対象となる活動も補償されます。	C (64歳以下)	1,850円	2,000万円	3,000万円	4,000円	1,500円	対人・対物賠償 合算1事故 5億円 (ただし、対人賠償は 1人1億円) ⚠️自動車事故によって賠償責任を負った場合は、補償の対象となりません。	180万円
	文化活動 ボランティア活動 地域活動 準備・片付け・応援・団体の送迎 ※スポーツ活動中の事故は補償の対象となりません。	B (65歳以上)	1,200円	600万円	900万円	1,800円	1,000円		
	A2 A2区分は65歳以上の方も加入できます。	800円	2,000万円	3,000万円	4,000円	1,500円			
全年齢	危険度の高いスポーツ(指導・審判を含む)	D	11,000円	500万円	750万円	1,800円	1,000円	対人・対物賠償 合算1事故 500万円	対象外

年間掛金には、制度運営費(10円)が含まれます。

スポーツ安全協会 山梨県支部 〒400-0836 甲府市小瀬町840
(公財)山梨県スポーツ協会内

TEL **055-243-3920** 電話受付時間 午前9時~午後5時(土、日、祝日を除く。)



保険の詳細内容、資料の請求は、
ホームページをご覧ください。
※インターネットからも加入受付をおこなっております。

スポーツ安全保険 検索

この広告はスポーツ安全保険の概要についてご紹介したものです。ご加入の際には、必ず「スポーツ安全保険のあらまし」および「重要事項説明書」をよくお読みください。詳細は保険約款および特約書によりますが、ご不明の点がございましたら(公財)スポーツ安全協会または東京海上日動火災保険(株)までお問い合わせください。

〈引受幹事保険会社〉

東京海上日動火災保険株式会社
担当課 公務第2部 文教公務室
TEL 03-3515-4346(平日9:00~17:00)

〈共同引受保険会社(令和2年4月予定)〉

あいおいニッセイ同和 共栄火災 損保ジャパン日本興亜
大同火災 東京海上日動 日新火災 三井住友海上 AIG損保

2019年12月作成 19-TC05719

発行元
山梨県スポーツ指導者協議会
(事務局)

〒400-0836 山梨県甲府市小瀬町840
公益財団法人 山梨県スポーツ協会内
TEL 055-243-8588 / FAX 055-243-8599

編集: 広報普及部

会報は協議会の活動等を会員の皆様にお伝えするためのものです。スポーツ指導者に関係する情報がありましたら、事務局へ情報を提供してください。

